

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 3月 4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3494600046		
法人名	社会福祉法人 神寿福祉会		
事業所名	ひまわり苑		
所在地	広島県神石郡神石高原町福永1501-2 (電話) 0847-87-0177		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	<a href="http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3494600046&amp;SCD=320">http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3494600046&amp;SCD=320</a>
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年3月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

自然豊かな環境の中で、ゆっくりゆったり楽しく、その人らしさを大切にする。介護の方針は、家庭的な環境を大切にし、ひとりひとりの力を大切にし、自立した生活ができる様に援助していきます。また、ひとりひとりに向き合い、その人らしさを大切にする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

・当ホームは多くの職員が地域において、認知症高齢者への支援の必要性を感じ、設立準備から開所まで携わる等、職員の意向や思いが詰まったホームである。全職員は、入居者一人ひとりが「楽しく・その人らしさを大切にしながら」、個々のペースを尊重し、安全面を踏まえた見守りや入居者にもできるかぎり役割を担ってもらい、生活にメリハリが得られるよう、支援に努めている。

・入居者と職員は共に、四季折々の自然の中で、散歩等を通じて近隣の人たちと関係を構築し、また地域に根づいた伝統的な行事を大切にして、地域生活の継続支援に積極的に取り組んでいる。

・開所して約1年であるが、全職員は「例えば今日はいったい何をしていたのだろう」なんて思い、悩んで毎日話し合いながら、入居者の皆さんの笑顔が見たい・ひとつでも多くの笑顔が見たいとの思いで、みんなで力を合わせて支援に取り組まれている。管理者と職員の地道な取組みは、安心感とゆとりのあるケアの提供につながっている。

東ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	日々のケアを常に意識して、情報の共有のもと職員一同でそのひとらしく生活して頂くためのケアの改善に取り組んでいる。	管理者は、職員に入居者が重ねてこられた経験、今持っている力を最大限に活かすためには理念をよく理解して、入居者本位の生活支援の実践に向けて取り組むことを常日頃から伝えられている。今後は、カンファレンスやケアプランの見直し時等に、今以上に理念の共有に努められることが期待される。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	保育所、地域の行事などに積極的に参加している。昔からのなじみの理容院・美容院が利用できるように送迎している。通院時に地元の方々との会話が弾んでいる。	開始時から、入居者が地域社会とつながりながら暮らし続けられるように、またホームの存在と意義等を理解してもらえ様に、地域活動や人々との関わりを積極的にもつ取組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	老人会等の集まりに参加し、施設の概要や認知症についての勉強会を一緒に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議に報告し、業務内容の改善に努め、会議の意見を反映したサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、2か月毎に入居者、家族、地域代表、民生委員、行政職員等の参加により開催している。会議では参加者との活発な意見交換が行われている。会議の場で得た意見や情報は最大限活用しており、入居者のサービス向上に活かされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町・地域包括支援センター等に指導、助言を得て、サービスの向上に努めている。	行政担当者には運営推進会議の参加時に、ホームの現状や課題等を把握してもらっている他、電話でも制度上の相談等を随時行っている。	

東ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」の徹底理解を図っている。散歩に出たい人には出たい時に安全面に配慮しながら付添、鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。</p>	<p>職員の意識も高く、創設以来、身体拘束に該当する行為や防止方法について学んでおり、安全に配慮しながら見守りによる身体拘束の無い支援に取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>ミーティング時にその日のケアを職員同士で話し合い、虐待に類似した行為はなかったかを振り返る。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在、該当する人がいないこともあり管理者や福祉施設就業経験者だけが理解しており、他の職員には徹底できていない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>ご家族の思いを時間を掛けて聞くようにして、希望などは介護計画に反映して取り組むことを説明し安心してもらおう。入院時の利用料についての説明を行い理解を得る。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>来訪時は日々の様子を伝え、処遇に行き詰まっていることなどがあれば相談して意見をもらったり、要望を聞きミーティングで話し合い改善できるようにしている。</p>	<p>入居者には、馴染の関係から日々の支援の中で、常に要望等の堪忍に努めている。家族には、運営推進会議の参加時や、個別の来訪時等に職員が積極的に話しかけ、意見や要望の把握に努めており、意見を反映させている。</p>	

東ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議・ミーティングや日々の介護の中で意見や提案を聞き、話し合いをした上で決定して実践するようにしている。	職員は管理者へ日々の支援の中や、毎日のミーティング時に意見や提案を行いながら、出された意見等は管理者と職員が充分議論し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行い、職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の段階に応じた外部研修を受講できるように計画を立てている。新人職員には管理者、リーダーが介護の方法、精神的ケア等指導して現場で常に助言・援助を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他のグループホームや施設の見学や体験実習を行い、サービスの質の向上を目指している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談には必ず出向き、顔を覚えてもらうようにしている。笑顔で話し掛け、笑顔で返答をしてもらえるように心掛けている。		

東ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の話したい事を最後までよく聞き、同調して今まで困っていたことについて、苑の生活の中でここまでの事はできるを明確に説明して家族に納得が得られるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早期対応が必要な場合にはケアマネとの連携を取り、利用可能なサービスへつなげられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自分でできることはしてもらおう。人から手伝いを求められたら、できることは手伝う、できない事は職員に伝えてもらう。生活の中での自分に合った仕事・手伝いを強制ではなく、進んでできるような雰囲気作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時には生活の様子、体調について細かく伝えることにより本人と家族との会話のきっかけ作りに努めている。部屋でゆっくり過ごしてもらえぬ雰囲気を作り、部屋の片づけ、衣類の点検などをお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	各個々の昔からの馴染みの美容院・理容院に行けるように対応している。知人・友人の来訪を快く受け入れゆっくりと過ごしてもらえるようにしている。	本人や家族からの情報を参考にしながら、馴染みの場所への訪問を実施している他、知人との関係が途切れないよう、面会しやすい雰囲気作りに努め、関係が途切れないよう支援を行っている。	

東ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員がそれぞれの個性を把握して個性を生かす働きかけを行い、輪が保てるように調整を行っている。みんなで楽しく話したり、利用者同士の会話が広がる様に職員も一緒に入って雑談や話を聞いたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設に移られた方に対して家族にその後の様子などを聞くようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で要望に対応したり、個々の生活パターンを把握して時間や体調によってトイレやベット介助などを行っている。	職員は入居者との馴染の関係や言葉、表情やしぐさ等から、本人の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合等には、生活暦や趣味趣向等を家族からも確認したうえで、日々の生活状況を見極めながら、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族やケアマネからの情報収集を行い、職員への周知により一貫した介護が行えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	体の調子や表情を観察して、その日の過ごし方や食事形態を検討し、実行するようにしている。		

東ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>少しでも自分でできる能力があれば、枯らすことのないように、常に家族や職員で話し合い介護計画に反映している。</p>	<p>本人の言葉や訴え、また家族の面会時での会話の中から計画作りに反映するように、心がけている。細かい部分での介護については、敏速な伝達と申し送り、伝達ノートにより統一性をもたせている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>食事・排泄・水分量・バイタル・日々の様子・来訪状況などを個別記録に記入して、職員それぞれが常に目を通して介護計画に沿っているかを検討している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>遠方家族に対しては、契約時に受診介助を苑で行うことを伝える。家族より帰って来て対応できる時にはしますとの返事もある。家族対応受診者であっても家族の都合がつかない時には苑から対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>美容院まで出かけられない人に対しては昔からの馴染みの美容院に来て散髪をしてもらえないかとお願いをして実現している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>それぞれのかかりつけ医に継続して受診できるように支援している。家族対応受診であっても日々の体調記録を記入して持参してもらい医師に情報を伝えるようにしている。受診結果も家族から細かく聞くようにしている。検査結果の悪化や特に注意が必要な時には病院から苑に連絡をもらえるように連携ができています。</p>	<p>本人及び家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。身体の状態や受診結果、服薬等、職員は家族と情報を共有しながら、適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。</p>	

東ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日のバイタルチェックを記録して、体調の変化がある時には報告して助言・対応を受けている。体調悪化早期発見につながる変化の気づきなどのアドバイスを常時受けて、実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院にアセスメントシートでの情報提供を行っている。家族への連絡を常に行い、入院時の様子を聞き、苑での対応可能な状態であればなるべく早い退院ができるように助言を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合の説明をおこなっている。体調変化毎に再度説明をおこない、家族の意向を都度聞くようにしている。	ホームでは看取りに関する指針を設け、本人や家族の要望にできるだけ添えるように説明をしている。看取りにおいても、本人の状態やホームでの対応範囲内等を医師とも相談しながら、最善の支援方法により対応できる体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	夜間であっても看護師に連絡を取る様にしているため、職員の実践力は身につけていない。（看護師の家が近いこともある。）		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行うようにしている。消防署の協力を得て避難訓練・避難経路・消火器の使い方訓練をおこなっている。	定期的に、防災訓練と消防訓練を実施している。運営推進会議を通じて地域の協力を呼びかけるとともに、日頃から警察署、消防署等との連携を図っている。	

東ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	共同生活の中でも個々のプライバシーに関する事柄については皆さんのいる場所では聞いたり、話したりしないように徹底している。尊厳ある対応を常に心掛けています。	年長者としての入居者には、常に尊厳や敬意をもって接しており、馴染の関係であっても言葉使いや声掛けは、馴れ馴れしいものにならないように全職員が意識して支援に努めている。また、入浴の際等にも、羞恥心に配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声かけを多くするようにして接する時間を長く持てるようにすることにより、言いたい時に言える状況を作れるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	気分によって1日に何度も散歩に出かける方への付添介助をおこなっている。個々の思いに添って、個別支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎食後の歯磨きの声かけをおこなっている。散髪に行きたいとの訴えがあればできる限りその日に対応している。髭そりなども毎朝きちんとできるように都度声掛けをおこなっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事準備の臭いなどから今日の献立の話しながら食事への意欲が持てるように働きかけている。利用者と一緒に食事をしながら摂取状況や食べ方などを観察してより良い処遇へとつながる材料を見出す。話をしながら楽しく食事ができるようにする。テーブル拭き・配膳・お茶入れなどできる手伝いをしてもらっている。	支度、調理、後片付け等、入居者が積極的に関わり、力を発揮できる場面を作り、張り合いや自信、楽しみにつなげている。	

東ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	利用者と一緒に食事をしながら摂取状況や食べ方などを観察してより良い処遇へとつながる材料を見つけ出すようにしている。摂取量・水分量トータルを記録している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、できない人に対しては職員が介助して行っている。夕食後には職員が必ず付添い丁寧に磨いた後、ポリドントに浸けておく。口腔内の状態も歯磨き時に点検するようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中は食事前後にトイレへの声かけを行い、介助も行っている。夜間は巡回時に個々のパターンに合わせて声掛けで起きてもらいトイレ介助を行う。男性には立ってする習慣の方へは回りにこぼれてでも職員が尿瓶を受けながら立ってできる状態を作っている。	排泄チェック表で排泄状況を把握しており、個別の排泄パターンやサイン、時間帯を見計らいながら、自分の力で気持ちよく排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	寝る前・朝一番の水分補給に牛乳を提供している。朝食時にはヨーグルトをつけている。便秘予防と水分補給を兼ねて行っています。毎日のラジオ体操をおこなって体を動かすようにしています。一日の水分量を1000～1500ccを目指して食事時・午前午後の水分チェックを行い、記録しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	夏場のシャワー浴であれば希望時に入ってもらえることは可能であるが、冬場は浴槽の都合で午後に決めさせてもらっている。曜日で男性・女性に分けているが、希望があればその日の人が終わった後に入ってもらったりしている。	清潔保持に気を配りつつも希望やタイミングを優先し、チームプレイ等によって一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。	

東ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼食後や入浴後などに横になりたい人がいるため、都度対応している。その日の体調によっても眠い時にはベッドに横になって過ごさせている。自分の部屋ではなく皆さんのいるところの方が安心出来る人もいるため自由にソファでも眠ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書は個人ファイルに閉じて職員がいつでも見られるようにしている。医師の指示のもと調整できる薬は状態を見ながら服薬してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の得意分野での手伝いや手仕事を任せて行ってもらっている。責任感から体力的・精神的な負担とならない様に支援している。嗜好品として飲酒の習慣がある人に対する食事時に猪口1杯の個人持ち焼酎をつけている。季節によって皆さんで散歩に行ったり、庭で体操をしたり、お茶をしたりして、外気浴もおこなっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候によって出で見たい人には自由にもってもらえるようにしている。花見やもみじ狩りに車で出かけられるように行事を組んでいる。家族対応で孫の運動会への参加もあります。地域行事には進んで参加できるようにしています。	日常的にホーム周辺への散歩や、地域に根づいた伝統的な行事等に出かけながら、一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	多額の現金は持ってもらわないようお願いをしています。一万円以下くらいの現金を持ってもらえるようにして、受診時や買物時に自分で払ってもらっています。		

東ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の方に了解を得られた方については思う時に電話で話をしてもらっています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常にいつもの場所にいつもの物があるようにして、戸惑うことのないように配慮しています。季節毎の飾り物やレクで季節の歌を歌ったりして季節が認識できる工夫をしています。	共用空間はゆったりとしており、清掃が行き届き、温度や換気も適切に管理されている。生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら、居心地の良い空間がつけられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファも皆さんで使用する物であることを認識してもらい、自由に横になったり、好きな所に座れるように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた物を持ちこんでもらい、自宅での生活の延長のような気分になれるようにしてもらっています。職員が勝手に片付けるのではなく、一緒になってお手伝いをしながら安心感を持ってもらえるように支援をしています。	入居時に本人が混乱や違和感を抱かないように、本人や家族に馴染みの品々の持ち込みを呼びかけており、個性的で居心地の良い居室をつくりあげている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自室や共有スペースでの行動は自由に行ってもらっています。自分の洗濯物は自分で取り込んでもらったり、片付けたりしてもらっています。各ユニットへの出入りも自由にしてあるので、思うように行動して話をしたい人の所へも行ったりしています。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ひまわり苑

作成日 平成 23年 4月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	介護・支援経験の浅い職員が多い為、知識や介護力の不足がある。	職員の質の向上。	研修会への参加、自己学習にて知識を広める。	6ヶ月
2	15	食事の手伝いが全員で出来ていない。	出来る事をひとつでも手伝う。	皮むき、混ぜる、運ぶ、洗い物、食器拭き、などにグループ分けをして手伝ってもらおう。	6ヶ月
3	51	ご本人の電話がしたい時や思いを伝えたい時に自由にできない。	伝えたい時に伝えられる安心感を得る。	ご家族に電話での対応のお願いをする。ご本人の思いを聞いてもらい納得できる話をしてもらう。	6か月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。